

表 ハンター・バレー地域の水素ハブにおける主なプロジェクト計画

プロジェクト名	参加企業	概要	進捗
ハンターエナジーハブ (Hunter Energy Hub)	主要企業：AGLエナジー（豪）、 フォーテスキュー・フュー チャー・インダストリー（豪） その他：APAグループ（豪）、 INPEX（日）、JEMENA（豪）、 大阪ガス（日）	●AGLが運営するリデル石炭火力発電所など2つの発電所跡地で、 バッテリー、太陽光エネルギー貯蔵、風力、揚水発電を組み合わせ てグリーン水素、グリーンアンモニアを生産 ●国内消費および輸出向け ●FS調査では、水素生産能力150メガワット（MW）から最大2ギガ ワット（GW）を検討。	●2022年にFS調査を実施。 ●プロジェクトの資金調達方法 や実現可能性について協議中。
ハンター・バレー水素ハブ (Hunter Valley Hydrogen Hub)	オリジンエナジー（豪）、 オリカ（豪）	●グリーン水素生産（オフテイカー候補は、ニューカッスルにある オリカのアンモニア製造工場） ●年間4,700トン（第1段階：電解槽容量50MW） ●将来的には、水素バスやトラックなどモビリティ部門での水素活 用、海外輸出を検討。 ●連邦政府が地域水素ハブプログラム助成金を7,000万豪ドル、 NSW州政府が水素ハブイニシアティブ助成金を4,500万豪ドル拠 出。 ●連邦政府のグリーン水素生産支援策「水素ヘッドスタートプログ ラム」の最終候補の一つ。	●2023年に基本設計（FEED） 完了。 ●最終投資決定は、2024年内を 想定。 ●2026年から初期段階の生産を 開始する目標。

（出所）オーストラリア連邦科学産業研究機構（CISRO）発表資料をもとにジェトロ作成